

## ショウジョウトンボ



なわばりをみはるオス(成熟した個体) ※右上の写真は休止するメス(成熟した個体)

**【体長】** 44～55mm

**【特徴】** オスは成熟すると全身が真っ赤になります。メスや、未成熟のオスはオレンジ色をしており、ウスバキトンボとよく似ていますが、ウスバキトンボに比べ、はねのつけ根がオレンジ色になります。

**【見られる場所】** いろいろな水辺で見られますが、特に水辺の植物が多いところを好みます。産卵は水面や水辺の植物に、飛びながら腹の先を打ちつけて卵を産みます。

**【見られる時期】** 5～10月頃

**【名前の由来】** <sup>しょうじょう</sup>「猩々トンボ」の意味。成熟したオスの真っ赤な体色を猩々に見立てたもの。「猩々」とは古典書物に記された、真っ赤な能装束を飾った架空の動物のことです。

## ウスバキトンボ



休止するオス(成熟した個体)

**【体長】** 44～54mm

**【特徴】** オス・メスともに全身がオレンジ色をしたトンボです。沖縄より南の温かい地域にいるトンボですが、初夏になると北海道を含め、全国各地へ渡りをして、成虫は秋頃まで見られます。しかし、冬になるとヤゴは水中の低温に耐えられず、死んでしまいます。

**【見られる場所】** いろいろな水辺で見られますが、特に浅い水辺(レンコン田・田んぼ・ビオトープなど)でよく見かけます。産卵は飛びながら、腹の先を水面に打ちつけて卵を産みます。産卵はしばしば、オスとメスがつながって行われます。

**【見られる時期】** 5～10月頃

**【名前の由来】** 「薄いはねをした黄色いトンボ」の意味。